

## 藤田保健衛生大学における国際交流活動

藤 垣 英 嗣\*<sup>§</sup> 秋 山 秀 彦\*

### はじめに

藤田保健衛生大学(以下、本学)は、医学部医学科と医療科学部6学科(臨床検査学科、看護学科、放射線学科、リハビリテーション学科(理学療法専攻および作業療法専攻)、臨床工学科、医療経営情報学科)からなる医療系総合大学である(2018年3月現在)。本稿では、本学の国際交流活動、特に臨床検査学科(以下、本学科)の活動について紹介する。

### I. 本学における国際交流活動

本学は早くから国際交流に取り組み、学生及び教職員の海外派遣、外国人留学生や研修生・研究員の受け入れを支援している。大学間交流による海外の教育機関との提携も年々増加しており、現在、国際交流協定(MOU: Memorandum of Understanding)締結校は世界各地の14ヵ国23校を数えている。MOU締結校には医科大学が多く含まれるが、本学と同様な医療系資格取得者を養成する大学も多数あり、本学医療科学部の学科も相互に学生の派遣・受け入れを行い、国際交流活動を積極的に推進している。また、本学に併設される藤田保健衛生大学病院は、厚生労働省が選定する「医療機関における外国人受け入れ環境整備事業」拠点病院にも認定され、医療の国際化にも努めている。

### II. 臨床検査学科における国際交流活動

本学科では、2008年よりタイ王国のコンケン大学(Khon Kaen University)と学生や教員の相互受け入れなどの国際交流活動を行っている。コンケン大学は、1964年にタイ東北部で最初に設立された大学で、現在は22学部、3カレッジおよび大学院からなるタイ王国有数の国立総合大学である<sup>1)</sup>。学生数は約40,000人におよび、教員数も2,200人を超える大規模な大学である。医療に関係する学部としては、医学部、歯学部、看護学部、薬学部などがあり、我々が交流している学部(Faculty of Associated Medical Sciences)は臨床検査技師と理学療法士を養成している。医療科学部6学科のうち、本学科を含め、看護学科、リハビリテーション学科はそれぞれが関係する学科と互いに交流を行っている。2012年より、タイ王国の治安情勢の悪化のため一時期交流活動を中止していたが、2015年には正式にMOUを締結し、現在は毎年春~初夏にコンケン大学から2名の学生を本学科に受け入れ、秋には本学科から2名の学生を派遣している。

### III. 臨床検査学科における コンケン大学学生の受け入れ(写真1)

コンケン大学の3・4年生の臨床検査技師を目指す学生2名を受け入れている。受入期間は2週間であり、主に午前中は本学科の各研究室を訪問し、午後は学内の実習に参加あるいは大学病院の

\*藤田保健衛生大学 医療科学部 臨床検査学科 <sup>§</sup>fujigaki@fujita-hu.ac.jp



写真1 本学科に受け入れた学生のfarewell partyの様子

検査部にて見学・研修を行っている。夕食はボランティアとして募った本学科の学生(主に4年生)が Buddy として行動を共にし、レストランでの外食や下宿先でパーティーを行うなど、学生間の交流は非常に活発である。週末は学生同士で計画を立案し、本学科の学生が名古屋城や東山動植物園などに案内して、日本の文化に触れる体験もしている。教員は同行しなくても、学生同士で自主的・積極的な交流が行われ、お互いの国の教育・文化の違いや国際感覚を学ぶ大変良い機会になっている。

#### IV. コンケン大学における 本学学生の受け入れ(写真2)

コンケン大学においても、本学科と同様な研修が2週間のプログラムで行われている。本学科から派遣する2名の学生(4年生)が、コンケン大学臨床検査学科(Medical Technology)の各研究室や大学病院・関連病院を訪問したり、授業や実習に参加するなどの研修を行っている。本学科と同様、コンケン大学においても学生が Buddy として本学科の学生に同行し、食事や観光に連れて行くなどのサポートをしている。タイ王国で本学科の学生たちは、地域に特有な疾患であるサラセミアや熱帯地方ならではの疾患の検査・治療が発達していることや、生理機能検査は臨床検査技師の仕事内容ではないことなど、日本と海外の医療事情や



写真2 コンケン大学での研修の様子

臨床検査技師制度の違いなどを学ぶ機会にもなっている。また、コンケン大学では公用語がタイ語であるにもかかわらず、授業は全て英語で行っていることも日本の学生にとっては英会話の重要性を再認識し世界観を広げる良い経験になっている。

#### V. 現在の問題点と今後の展望

本学科とコンケン大学間での国際交流活動は、派遣された学生だけでなく、受け入れ側の学生も積極的に関わっており、海外への興味や関心を高め、国際感覚を養う上で教育効果は高いと考えられる。しかし、本学科の学生は英会話力の不足の

ため思うようにコミュニケーションが取れていない場面も見られた。日本の教育全般に言えることであるが、英会話力の向上は国際交流活動を進めるうえで最も重要な点であると考えられる。

今後、本学科とコンケン大学間での国際交流活動をより発展させるために、学生の相互派遣だけでなく、教員や大学院生を含めた共同研究の推進も計画されている。2017年7月には、コンケン大学 Associated Medical Sciences 学部の学部長らが来校し、本学科教員による研究紹介を英語で行った。また、研修期間の延長や教員の派遣についての議論も行われた。今後は、教員の英会話力の向上と共同研究も含めた、より発展させた国際交流活動が期待される。

## おわりに

国際交流活動は、学生の国際感覚を養うだけでなく自主性や積極性を生むとともに、英語力を自覚するための場として、その意義は大きいと考えられる。実際に海外に行かずとも、海外からの学生を受け入れて交流することは、異文化を理解し価値観や世界観を広げるための貴重な経験となる。今後も国際交流活動を続け、より多くの学生が貴重な経験ができるよう体制を整えていきたい。

## 文 献

- 1) Khon Kaen University ホームページ(最終閲覧日：2018年3月14日)  
<https://www.kku.ac.th/academics/faculty.php?l=en>